



第11期生

市民後見人養成研修始まる

市民貢献人

会報

苫小牧市後見支
 援員等連絡会
 発行人：三河敏規
 ☎38-7291
 FAX38-7292

苫小牧市成年後見支援センターでは、6月17日(金)今年度第1回目の市民後見人養成研修が始まりました。養成研修は今後7月15日までの毎週金曜日、延べ5日間の座学で35時間の講座が組まれています。今回の養成研修は平成26年度から数えて(27年度未実施・28年度から年2回実施)で11回目となります。7月15日の修了式を迎える修了者は第11期生となります。

養成研修初日に参集したのは社会貢献に高い志を抱いた女性8名、男性6名の合計14名。

オリエンテーションの後に始まった初日の講義は、市民後見概論と成年後見制度概論、及びその各論。まために受講生相互の交流を兼ねたグループワークを行いました。

このグループワークは、仲間づくりの絶好の機会です。楽しく乗りのり、大いに盛り上がりましょう。

2日目以降は、家庭裁判所の実際、認知症高齢者の理解、精神・知的障がい者の理解と対応、後見制度の



▲ グループワーク

実務と後見人の倫理性ほか。近年の例から、酷暑の時期と相まって過酷な試練は続きます。

研修生の皆様には、万全な体調管理で脱水症の回避等十分に留意され、晴れの修了式当日には誰一人欠けることのないよう衷心よりご祈念申しあげます。

最上のわざ

この世の最上のわざは何？

楽しい心で年をとり

働きたいけれども休み

喋りたいけれども黙り

失望しそうな時に希望し、

従順に、平静に、己の十字架をになう

若者が元気一杯で神の道を歩むのを見てもねたまず

人の為に働くよりも、謙虚に人の世話になり

弱って、もはや人の為に役立たずとも

親切で柔和であること ー。

老いの重荷は神の賜物。

古びた心に、これで最後の磨きをかける。

まことのふるさとへ行くために ー。

おのれをこの世につなぐくさを少しずつはずしていくのは、

真にえらい仕事 ー。

こうして何もできなくなれば、それを謙遜に承諾するのだ。

神は最後に一番よい仕事を残してくださる。それは祈りだ ー。

手は何もできない。けれども最後まで合掌できる。

愛するすべての人のうえに、神の恵みを求めるために ー。

すべてをなし終えたら、臨終の床に神の声を聞くだらう。

「来よ、わが友よ、われなんじを見捨てじ」と ーー。

「人生の秋に」

ヘルマン・ホイヴェルス 著